

突発性発疹

症状

- ・急に発熱し、解熱後に体を中心に発疹を生じる感染症です。
- ・ヒトヘルペスウイルス6(HHV6),7(HHV7)の感染によって発症します。
- ・発症年齢は、1歳未満が多く、3歳までには95%以上の子どもが抗体陽性(抵抗力を持つこと)になります。
- ・原因ウイルスは2種類ありますが、最初に感染して発熱と発疹を生じるのは、HHV6で、1歳以後に感染して同様の症状を生じるのは、HHV7とされています。
- ・感染しても発症するのは60~80%で、残りの20~40%は症状が出ません(不顕性感染と言います)。
- ・38~40℃の発熱が数日間(多くは3日間)続いた後に解熱し、同時に淡い赤から濃い赤色の発疹が全身に出現するのが特徴です。
- ・その発疹は、かゆみを伴うこともありますが、数日で消失します。
- ・合併症は、下痢、大泉門膨隆、リンパ節腫脹などがみとめられますが、稀には、熱性けいれん、脳炎、劇症肝炎などの重篤な合併症も報告されています。
- ・発熱時も機嫌が良好ですが、時には非常に不機嫌になることがあります。これは、軽い脳炎症状であろうと言われていますが、2~3日で回復します。
- ・感染源の多くは家族、特に母親です。なぜなら、この原因ウイルスである、HHV6,HHV7は、感染すると、症状が治まった後も唾液線、リンパ節などで生存し続けるからです(潜伏感染と言います)。
- ・その潜伏感染しているウイルスが、赤ちゃんに感染するといわれています。このため、患者さんに最も接触する機会の多い、母親が感染源になります。
- ・母親から感染しても、胎盤を通じて母親からもらった免疫力がある4ヶ月位までは発症しませんが、その免疫力が無くなる5ヶ月以後に感染が起こるとされています。

治療

- ・特別な治療法はありません。また、ワカクもありません。
- ・発熱して食欲低下、不機嫌などの症状があれば、解熱剤を使って下さい。

登園・登校のめやす

- ・解熱し、発疹が薄くなれば登園できます。

急患診療センターを受診するめやす

- ・熱性けいれんを生じやすい疾患です。5分以上けいれんが続くときは、医療機関をすぐに受診して下さい。
- ・発熱のみの時は、救急外来などの受診は不要です。

新潟市急患診療センター (電話025-246-1199)

<http://www.niigata-er.org>